

# PROFILE

## 梶谷文彦先生

岡山大学医学部生理学第二講座  
平成12年10月1日就任



平成12年10月1日より岡山大学医学部第二生理学を担当させていただくことになりましたので、ご挨拶申し上げます。

医学部卒業後、これまで大阪大学医学部、工学部、川崎医科大学で循環器医用工学の研究を続けてきました。光ファイバ型レーザープラ血流計、針状レンズプローブ生体顕微鏡などのME手法を新たに開発し、主として冠循環の病態生理学的解析を行ってきました。例えば、後者により易虚血性である心内膜側微小血管のin vivoイメージングに初めて成功し、その生理学的特性を明らかにしました。

岡山大学の菅弘之教授とは、これまで科技厅「生活・地域流動研究」などいくつかの研究プロジェクトを通して協力しながら研究の推進を行ってきました。御承知のように、先生は今年国立循環器病センター研究所長としてお移りになりましたが、その後任として岡山大学から思いもかけない招請を受けた時は、光栄とは思いつつ、前任医大の諸事情、年齢、生理プロパーでないことなどを考え、正直なところだいぶ逡巡しました。

現在、医用生体工学分野ではBECON (Bioengineering Consortium: 生体工学協会、米国NIHで1997年初めに設立、2000年暮れInstitute設立が両院通過) 推進の気運が高まっており、日本でも平成13年3月を目指して各省庁横断的な組織が作られようとしています。岡山大学医・歯学部では平成13年度大学院大学化が行われ、BECONなどの拠点としても大変よい環境であると思いました。また各大学間の研究グループとの

連携の必要性を感じておりましたので、生理学と医用工学の橋渡しのためにも着任させていただくことにしました。

BECONの柱といわれるのが、生理学と関係が深い“Physiome: フィジーム”です。Physio = life or nature, -ome = as a whole entityからの造語で、細分化が進む医学にあって、生体の機能を構成的に解析し、理解しようとするものです。NIHフィジームプロジェクトのリーダーは友人のBassingthwaite (ワシントン大教授、シアトル) であり、菅先生も、フィジーム推進に力を注ぐといっておられます。私の専門分野である冠状循環をはじめとする循環統合生理学において、日本が特異とするナノテクノロジーなどのbioengineering技術を用い、国内外との提携を行いながらフィジームの研究、教育推進に努めたいと思っております。

生理学会の諸先生方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いする次第です。

昭和40年	大阪大学医学部卒業
昭和42年	大阪大学医学部・工学部電子助手(併任)
昭和52年	川崎医科大学教授(医用工学)
平成6年~平成9年	国際医用生体工学連合会長
平成11年~現在	理化学研究所情報基盤研究部 情報環境室客員主管研究員
平成12年~現在	岡山大学医学部生理学第二講座教授 (川崎医科大学客員教授)